

おお大勝利

平成 29 年度山東サッカー一部報第 12 号 (9 月 6 日)

サッカー一部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

Y1山商に敗れ残留に黄信号灯る

8 月 26 日 (土) Y1 第 11 節山形商業戦が山形市球技場で行われました。相手の山商は、ここまで勝ち点 7 と苦しんでおり、勝ち点 8 の山東よりも下位。FW に、山形でこの年代トップ (第 1 級) の選手を擁しているが、全体としての戦いはここまで厳しい。とはいえ、山東との勝ち点差は 1 と、僅差。山東、山商とも、残留に向けて非常に重要な試合となる。

山東は、8 月 25 日～27 日と学校祭¹のため、それを抜け出しての公式戦となる。例年この時期の公式戦は、準備やら何やらで練習に十分人が揃わない。なかなか調整難しいというのが本音。そのため 24 日・25 日 (試合前日・前々日) と練習 OFF を予定していた。すると、キャプテンの「中山のドン」フトシが職員室に来て、「先生、(前日 25 日はクラスや委員会等の山東祭の準備でさすがに部員集まれないけども) 24 日に練習してダメですか?」と聞いてくる。「いや、ダメじゃないけど、集まれるの?」と聞くと、集まらせるとのこと。あな頼もしや。そんな風に選手自ら動いて OFF を撤回させるのは珍しい。その週の練習に行くと、練習には気合いが入っているように見えるし、練習後の反省でも「今週は Y1 残留に向けて重要な試合なので・・・」という発言があり、**学校祭に浮かれている様子が見られない。これは頼もしい**と感じておりました。**3 年で唯一現役続行している超絶プラス思考のカンタ**は、山東祭副実行委員長という要職に就いており²、さすがに抜け出すことはできない。よって、**この試合が、新チームではないにせよ新人チームの初めての試合**ということになる。

さて、当日、絶好のコンディション。ちょっと暑いですが、熱中症続出という暑さではない。会場には、**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**という「いつもの御三方」がいつも通りいらっしゃる。**山形県サッカー協会の専務理事にして、山形東サッカー部後援会会長の岸さん**もお見えになった。試合前は、守備の確認がメイン。山商の FW にどう対処するか、指示を出して、選手を送り込む。試合が始まると、山商優勢ながら、山東も粘れている。特に、前半立ち上がりは山商もボールが足に付いていない様子で、両者アバウトな試合運びで時間が過ぎるとしたら、**正直引き分けでも御の字の山東**³としては、ありがたい。

¹ 山東祭と呼ばれています。土日どちらにも一般公開があり、勉強で溜まったガスを抜く山東恒例行事です。

² 山東祭は、なぜか、サッカー部から実行委員長・副実行委員長が出る習わしが近年あります。私が在校生の頃 (25 年前) はそのような文化はありませんでしたが、私が赴任した 12 年前にはもうそのような「伝統」はありました。今年の委員長は、お祭り男? ヒロヒサでした。

³ 選手にはこうは伝えませんでした。

と、こう感じていた前半 24 分、中盤でボールを奪いきれず、それが DF ラインまで流れる。そのボール、DF ラインで要警戒の山商 FW を挟み込んでボールを奪いながら、その選手にゴール前で再度奪い取られ⁴、慌てて飛び出した **GK ホタテことイシハラ** の足元をあざ笑うシュートが角度のないところから決まり、失点。ホタテさん、飛び出しても良いから、シュートの時、最低でも止まろうよ。じゃないと、ボールに反応できないし、このシーンくらい角度がなかったら、シュートは体のどこかに当たるはず（この場合だったら足に当てられたはず）。もちろん GK の問題だけでなく、FP があれだけボールを奪い切れず確保し切れなかったら、そりゃ危ないシーンになりますよ。ということで、新チームになってからずっと課題にしてきたし、IH の視察でもそこを一番の違いと感じ苗場でも克服を目指してきたが、やはり **球際の厳しさを欠いた**。その後、山商優勢のまま、前半 0-1。

正直スキルの差としては開きがある。その開きを前提にすれば、このスコアは山商が決め切れなかったとも言えるし、山東が最後良く守るシーンが多かったとも言える。ともかく、一点差は希望がある。そう勇気づけて後半送り出しましたが・・・非常にもったいないことに、後半立ち上がり追加点を奪われ、さらに厳しい展開に。この失点の場面、確かに山東の DF の対応が軽すぎだったけれど、**山東のディフェンスを斜めに切り裂いた山商の攻撃が素晴らしかった**。その後、3年のチームでもレギュラーポジションを得ていて、新チームでは MF で出ていた **2年タカヒラやキクちゃん** を FW に上げ、勝負に出る山東。それで多少山商ゴールに迫るも、好機は作れず。打ったシュートは、打った瞬間入らないと確信の持てるようなフワリとしたミドルシュートのみで、**決定機ばかりか好機すら作れず仕舞い。結局、0-2 で負け**。

失点を覚悟するようなシーンではスライディング等で体を張った守備が見られ、好プレーもありました。最後の最後は割らせない粘りも感じましたが、喫した 2 失点を振り返るとあっけなさを感じてしまう。周囲からは、「2 失点しかしてないんだから、これまでの大量失点の負けを考えると成長ではないか」というような反応を頂きもしましたが、0-2 のスコアが相手の事情により 0-3、0-4 になることはあっても、山東の頑張り次第でスコアが 1-2 や 2-2、3-2 になったとは全く考えられない。後半は、山商のパワーク、個々のスキルばかりが感じられ、山東はボールの獲り所なくただ走らされているだけ。**終盤は、2年タカヒラと 1年オサが試合中口論を開始**⁵。自己主張があるのはとても良いことだし、試合中であろうとなかろうと、ぶつかり合うくらいの自己主張があってはじめてチームの方向性が固まってくるところがある。ゆえに、**口論は大歓迎**。しかしね、オサ、ボールそっちのけで口論はダメでしょ。**それを周りがギッチリ叱れないところも、弱さ**ですね。**喧嘩するくらいの元気を良い方向に持って行けるかどうかは、指導者次第ですね**。

応援ありがとうございました。Y1 残留 or not という話題も大切ですが、このチーム、

⁴ このシーン、**右 SB で先発した「アダチさんの後輩」山辺出身 1年ダイキ**のスクリーンプレー（ボールと相手の間に体を入れてボール保持するプレー）が甘かった。ちゃんと手（手のひらは×）を使って相手を突き放しつつ相手に対して体を横に向けて遠い方の足（この場合右足）でボールを持てば、何のことはなかった。この「相手に対して体を横に向けて」というのが一番できておらず、相手がボールを奪おうと正面からおおい被さりに来た（相手 FW が利き足の左足で奪いに来た）ら、その相手の動きに応じて体の向きを横に変える必要があった。

⁵ その後、口論の延長戦が試合後も繰り広げられました。

来春を見据えてサッカーの基礎力（個々の選手のスキル・判断力・スタミナ）を上げて行かないと、**地区総体で敗退して県総体出られないという曇き目に会いかねない**。これは当然油断への戒めではなく、本気で思うことです。まずは、今週末、地区新人があります。初戦から気を抜かず、県新人に出場できるよう頑張ります。応援よろしくお願ひします。

**9月9日（土）地区新人 VS 天童高校 11:00～ @山形市スポーツセンター（落合）
これに勝つと**

同日、15:40 VS 山本学園と山形学院の勝者 @同上

そして、この結果次第で9月10日も地区新人があります。

9日に2連勝すると県新人出場が決まります。2試合目負けると、10日2連勝する必要があります。

山東サッカー部元トレーナー名和さんから報告

現役生や保護者の皆さまはご存じないかと思いますが、確か2012年から3、4年ほど山東のトレーナーを務めて下さり、**昨年スイスのホルン（オーナーは日本代表の本田）のトレーナーに就任**した名和さんから連絡が来ました。諸事情によりホルンとの契約更新には至らなかったもののドイツで就職口を探していた名和さん。ドイツに行く前の6月7月は日本に一時帰国したため、7月1日ビールと日本酒しかない駅前有名な焼鳥店で山東スタッフやOB有志と交流を深めましたが、その際、ドイツでの就職について熱く語っていましたが・・・**すかさず新しい活躍の場を決めた**そうです。下は、ちょっと空いてしまいましたが、8月9日に頂いたメールの内容になります。皆さん、最後の文章を特にお見逃しなく！！

おはようございます。

名和です。ドイツに来て2週間が経ちました。

この度、SCフォルトゥナ・ケルンというチームのU-19カテゴリーで専属メディカルトレーナーをやることになりました。トップチームはドイツ3部の古豪で、U-19はドイツ最高峰のブンデスリーガ（ドルトムント、シャルケユースなど）に所属しているチームです。再び育成のカテゴリーに戻り、ここから這い上がってトップチームに絡めるようにまた頑張っていきたいと思ひます。

P.S 履歴書を持参し監督と育成部長と面談をしたのですが、履歴書の経歴欄にしっかり山東サッカー部の名前を書かせていただきました。

紙幅に余りがありましたので、保護者の方や部員諸君に伝えたいことを書きます

雑感 1

河川敷グラウンドで練習しておりますが、その「天敵」は主に以下の四つです。

- ①グラウンドも上流から下流に若干傾斜しているため、大雨が降るとその方向に雨が流れグラウンド内に「川」ができ土砂を流すので、グラウンドが波打つ
- ②ボールが川原方面に飛んで行きボールが流されると、回収不能になることがある
- ③グラウンドを囲む草が浸食しグラウンドが雑草まみれの荒地になったり、グラウンド周りの草木が生い茂り過ぎて、そこへ飛ぶボールが回収できなくなる
- ④専用駐車場がないため、グラウンド脇の道路に路駐する車がまま多くなり、近隣住民とのトラブルに発展する

上記①②はもう仕方ありません。④は何とか山東保護者や他の団体の使用チームに、下流の公園脇への駐車をお願いする等、頑張っております。今回お話ししたいのは③。ピッチ内の草に関しては部費で除草剤を買い、毎年駆除に努めています。また、サッカーの使用頻度が多い箇所には草は生えにくいため、ピッチ内の草が生い茂り過ぎるといのは、練習不足ということも言えます。同様に、しっかりとグラウンド整備を行ってれば、草の浸食はある程度防げるでしょう。しかし、問題はピッチ周辺の草木。忘れた頃に管理者の山形市も草木を刈ってくれますが、本当にありがたいことにサッカー部OBの方や、保護者の方、保護者OBの方がたびたび刈ってくれており、練習しやすい環境を整えて下さっています。選手諸君も知らないうちに……。報道局長の後藤さんは、練習取材のついでにいつも草刈りして下さいます。卒業生の三井くん（山東第67回卒）のお父様は、昨年だったか、河原の草木を伐採して下さい、そちらにボールが飛んでも無くならない状態を作して下さいました。そして、保護者OBの洪間さん（第60回卒のヤスオ、66回卒のスミコの父）は、毎年、グラウンド周りの草木を刈って下さり、ボールが無くならない環境を維持して下さいます。選手諸君は、このような方々のおかげで不自由なく練習に取り組んでいることに思いをはせ、「いつも通りサッカーできる」という日常に感謝の気持ちを持ちましょう。

雑感 2

先日、サッカー日本代表が豪州代表を下し、ワールドカップへの切符を手に入れました。一サッカーファンとして、とてもうれしい、胸が熱くなる得点そして勝利でした。ただ、忘れてならないのは、日本にいる人全員がサッカーファンであるわけではないということ、またはファンの行状に寛容ではないということです。以前、東京にいるとき、馴染みの床屋の常連客が「今年長嶋監督が退任するんだから、今年巨人の優勝を願っていない人はいないでしょう」と話をしているのを聞いて、心底腹が立ち、「私はアンチ巨人で、巨人の130連敗を願ってますよ」と言い返してやりました。勝手に「みんな……なはず」と思いこんで、甘えた発想を持つのは、その他の人々にとても不愉快な気持ちを与えるものです。メジャースポーツとしてサッカーが一つの位置を確立した現在ではありますが、「日本国民全員が盛り上がっている」などと驕ったり（ニュース原稿でしばしばある）、「めでたい日なんだから許してくれる」と甘えたりするのは、サッカーやスポーツ全体のためにならないと私は思うのですが、皆さんいかがお考えですか。